

# News & Scope Handai Hospital

阪大病院ニュース

第44号

発行/大阪大学医学部附属病院広報委員会(総務課)  
http://www.hosp.med.osaka-u.ac.jp

住所/〒565-0871大阪府吹田市山田丘2-15 TEL/06-6879-5021

禁転載 (この紙面は再生紙を使っています)

## がん治療中心に高度な医療

### 消化器外科

胃がん、大腸がん、肝臓がんなど日本人に多いがんを中心に多様な消化器の病気を診る阪大病院の消化器外科。対象となる病気が多いため二人の診療科長がそれぞれの専門とする分野を担当しており、一つの診療科としてチーム医療によって患者さんのQOL(生活の質)を第一に考え、安全で質の高い診断、治療を行っています。

### 患者さんのQOL第一に考え

同診療科では森正樹科長が大腸を中心とした下部消化管、食道、胃など上部消化管を土岐祐一郎科長、そして移植も行う肝胆膵(肝臓、胆のう、胆道と膵臓)分野は両科長のもとで永野浩昭准教授がそれぞれリーダーとなって診療に当たっています。

#### 上部消化管

#### 胃がん

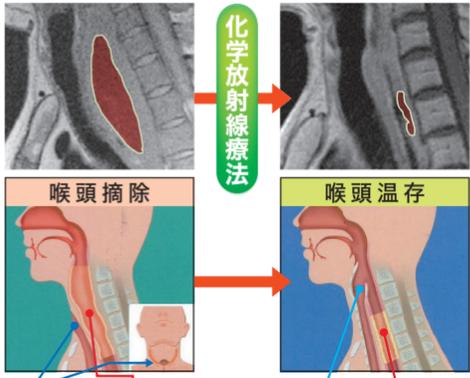
#### 独自の遺伝子診断

日本人に多い胃がんですが、早期に発見されればほとんど完治するようになってきました。

#### 食道がん

#### 縮小手術で機能温存

食道の壁は薄いうえに大きな血管や臓器が近接しており、のみ込みにくいなどの自覚症状が現れた時には周囲への転移や浸潤例が多くなります。そのため手術は体に非常に大きな負担がかかります。当科では安全はもちろし手術後の患者さんのQOLを考え、可能な限り小さな手術ですむ工夫に取り組んでいます。



1993年以前 → 94%で喉頭摘除  
2000年以降 → 62%で喉頭温存  
頸部食道がんに対する喉頭温存手術

頸部食道がん手術では声が出せなくなったり、食べ物が飲み込みにくく、むせを生じた

りすることがあります。事前に画像診断でこれらの機能を温存できないと判断された場合に

は、術前に化学放射線療法で病巣を小さくし、切除範囲を狭め機能を温存しています。また、胸部食道がんでは、手術中に胸部と頸部の境界にあるリンパ節への転移の有無を調べ、転移がなければ頸部のリンパ節廓清(切除)を省略しています。

当科の取り組みとして切除可能な進行食道がんに対して、術前の抗がん剤治療を組み合わせて、術後の再発、転移を減らせるようになっています。

現在では腹腔鏡による低侵襲手術が一般的になってきました。これまでの腹腔鏡手術では腹部に5カ所の穴を開けて腹腔鏡などの手術器具を挿入していましたが、当科ではへその部分に2・5センチの穴を一つ開けるだけで手術

へその内に2・5センチの穴をあけるだけで、傷も小さい。

森科長は「がん幹細胞」研究のバイオニアです。森科長はがんが再発するのはどうしてかを調べるうちに、がんにも幹細胞があることを発見しました。

がん細胞が目覚めた細胞とすると、がん幹細胞は眠っている細胞と言えます。抗がん剤は分裂を盛んに行っている目覚めたがん細胞にはよく効きます。しかし、眠っているがん細胞に抗がん剤は効果がありません。抗がん剤を投与してもがん幹細胞は死なずに、生き

ていて再発するのです。また、がん幹細胞はCTやPETでは見つけられないのが特徴です。森科長は「がん治療においてがん幹細胞をやっつけることができれば再発や転移を防ぐことができ、がんを根本から治すことが出来ます」と期待しています。

肝臓がんは治療方針を、消化器外科、消化器内科、放射線科(大阪大学肝臓診療検討会)で、腫瘍の進行度と肝機能に合わせて決定しています。

当科では主に肝切除と肝移植を行っています。門脈や下大静脈内に腫瘍が進展した高度

#### 下部消化管

#### 大腸がん

#### 低侵襲手術を導入

#### がん幹細胞

#### 治療の進展に期待

#### 難治がんに挑む

#### 肝臓

日本では男女とも増えている大腸がん。当科では大学病院としての役割を考え、患者さんに負担の少ない低侵襲手術法の導入や再発した大腸がんの治療に力を入れています。

大腸がんはリンパ節への転移がなく早期であれば内視鏡による切除で根治できます。しかし、転移があっても



肝臓がんは治療方針を、消化器外科、消化器内科、放射線科(大阪大学肝臓診療検討会)で、腫瘍の進行度と肝機能に合わせて決定しています。

当科では主に肝切除と肝移植を行っています。門脈や下大静脈内に腫瘍が進展した高度

進行例に対する肝切除や、低侵襲手術として

肝臓がんは治療方針を、消化器外科、消化器内科、放射線科(大阪大学肝臓診療検討会)で、腫瘍の進行度と肝機能に合わせて決定しています。

当科では主に肝切除と肝移植を行っています。門脈や下大静脈内に腫瘍が進展した高度

進行例に対する肝切除や、低侵襲手術として

肝臓がんは治療方針を、消化器外科、消化器内科、放射線科(大阪大学肝臓診療検討会)で、腫瘍の進行度と肝機能に合わせて決定しています。

当科では主に肝切除と肝移植を行っています。門脈や下大静脈内に腫瘍が進展した高度

進行例に対する肝切除や、低侵襲手術として

肝臓がんは治療方針を、消化器外科、消化器内科、放射線科(大阪大学肝臓診療検討会)で、腫瘍の進行度と肝機能に合わせて決定しています。

### 東日本大震災医療支援、現在も継続

本院では、3月11日に発生した東日本大震災後、直ちに医療対策本部を設置し、地震発生の日には、ドクターヘリおよびDMAT隊を派遣し、患者搬送業務や傷病者への医療支援活動を実施しました。5月末から7月中旬にかけて

て近畿ブロックの4つの国立大学病院が連携し、宮城県石巻地区において医療支援活動を展開しました。派遣は、13チーム73人(本院からは、4チーム医師8人、看護師8人、薬剤師4人、事務職員4人の計24人となり、それぞれが難所内に設置された救護所を

巡回し、避難されている方々の診察、健康チェック、避難状況のチェックなどを行いました。9月からは、新たに近畿ブロックの国・公・私立の大学病院が連携し、輪番で岩手県立宮古病院に医師を2週間派遣することに、本院からも、内科系診療科を中心に10月から順次医師を派遣しています。

病院敷地内 全面禁煙

